

デンマークの日本研究

オローフ・リディーン（コペンハーゲン大学）

デンマークの日本研究の話は簡単です。というのは、デンマークにおける日本研究者は、私のほかにあと二～三人しかいないのですから。

北欧の日本研究についての最近のデータがありますが、それによると、1960年代までは何もなかったのです。コペンハーゲン大学が、1961年から日本語を教えるようになりましたが、これは初心者のための日本語講座で、高校生ぐらいのレベルにすぎませんでした。

でも、60年代にはいろいろな先生がいました。最初の先生は、現在大阪外大におられる岡田れい子教授でした。彼女はデンマークの文学を勉強しに留学された人です。日本語のプログラムは、イースト・エイジアン・インスティテュートの一部に初めから入っていましたが、この極東アジア研究所の出発は、中国語と中国のことを研究するところがありました。だから最初の正規の教授のイグル先生は、中国関係の分野の学者だったのです。それは1958年のことでしたが、このイグル先生が、中国語以外の言語、つまり日本語・アイヌ語・タイ語などに言語学者としていろいろな興味を持っていましたので、彼を通じて日本語の講座も導入されることになったのです。

私がコペンハーゲンに来たのは1968年でした。デンマークの日本研究が始まったのはその時代からです。学生たちは言葉だけではなく、文学・思想・歴史・言語学・美術などを研究するようになり、四人の学生が博士論文を書きました。そのテーマは、鎌倉思想史、アイヌの言語、平安

時代の言語学、明治文学についてでした。修士論文の数は、これまでに約30本ありますが、その内で、一番ポピュラーな分野は、文学と歴史です。しかしその中で有望な学生は二人とも言語学士で、現在東京大学で留学生として勉強しています。

今のコペンハーゲン大学の状態は、正式のスタッフが三人しかいません。教授の私と助教授の長島さん、K. レフシュグさんだけです。他にアシスタントが二人、日本人一人とデンマーク人一人がいて、彼らがよく働いていますので、本当のスタッフは五人ということになります。もう一人欲しいのですけれども、候補者はいても、現在のデンマークは不景気なため、可能性は少ないと思います。学生数は約100人で、毎年少しずつ増えていきます。日本研究は最近世界中でブームなので、同じ傾向が続くと思います。

北欧、スカンジナビア全体について言いましても、やはり日本研究は1960年代からといえましょう。スウェーデンは20年代に少し日本研究がありましたけれども、それは一時的な現象で、本格的な日本語の講座が大学にできたのは、やはり1960年代初めからです。ですから、北欧、つまりフィンランド・スウェーデン・ノルウェー・デンマークの日本語学習と日本研究は、大体1960年代からとみればよいでしょう。

(1989年3月)